

釜石祥雲支援学校

研究テーマ

「主体的・対話的で深い学び」による生活に活用できる力の育成

～ 教科等横断的な視点による合わせた指導の内容整理と指導の充実をとおして ～

(2年研究1年次)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

本校では昨年度までの研究で、「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業改善に取り組み、本校の各学部等で求められる「主体的・対話的で深い学び」の姿の共通理解、3観点による評価規準を導入した学習指導案による授業実践、「いわての授業づくり3つの視点」によるチェックシートの活用を行い、さらなる充実と改善を図るために継続して取り組んでいるところである。

前研究の課題で、知的障がいを対象とした教育課程の「各教科等を合わせた指導」(以下、「合わせた指導」)の内容について新学習指導要領にそった見直しの必要性があげられた。

そこで、「合わせた指導」で育てたい資質・能力や各教科等との関連や学部等間の系統性を明らかにし、教科等横断的な視点で内容を整理することで、生活に活用できる確かな力の育成をさらに図りたいと考える。

(2) 研究の目的

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を推進する。
- 「合わせた指導」の学習内容やねらいを整理し指導の充実を図る。
- カリキュラムマネジメントの推進を図る。

(3) 研究の内容及び方法(1年次)

- ①各教科との関連を意識した学習指導案の作成と授業研究会を行い、各教科等の内容に関する理解を深める。
- ②「主体的・対話的で深い学び」を推進するためにチェックシート等の実施により、意識の改善をさらに図る。
- ③「合わせた指導」と各教科等の内容に関する理解を推進し、新学習指導要領に示された内容を確実に実施するための研修を行う。

④現在の学習内容の確認と年間指導計画の改善に向けた方向性を探る。

⑤新学習指導要領に示された内容やねらいを反映された新題材または目標等を検討し、来年度の年間指導計画に盛り込む。

(4) 研究1年次目のまとめ

- ①今年度の授業研究会では、家庭科や理科などの教科の題材を取り扱った授業が積極的に行われ、各教科の目標や内容についての理解を深めることができた。
- ②教職員を対象に「主体的・対話的で深い学び」に関する意識調査を6月と12月に行った結果、すべての項目で2回目の結果が上回った。
- ③研究の手だてとして「新学習指導要領 内容・段階表」を冊子としてまとめ、学部別研修会を行い合わせた指導についての理解を深めた。
- ④「合わせた指導」で、どの教科のどの内容を行っているかを確認した。各学部における取り組むべき内容や段階についてまとめた。
- ⑤年間学習指導計画の新様式を作成し、新学習指導要領の内容のまとまりを明示するとともに、来年度に向けて内容の改善を図ることとした。

2 講演会

演題:「明瞭な発語や正しい発声を促す指導・支援 ～ことばの教室での指導をとおして～」

講師: 全国公立学校難聴・言語障害教育協議会
元副会長 森田 巧 氏

期日: 令和3年7月28日(火)

場所: 釜石高等学校 石楠花ホール

参加者: 49名(感染症対策のため対象を原則
校内職員に限定して実施)

3 研修会

オンライン研修会の実施(3回:1月現在)

学部別研修会の実施(2回)

4 刊行物

なし